

チャレンジ講座（文系第3回）を実施しました

7月4日（水）に第3回文系チャレンジ講座が、本学経済部社会イノベーション学科の河野憲嗣先生を講師に迎え、「地域通貨について考えよう」というテーマで行われました。

遠隔配信された高田、中津南、安心院、臼杵、大分西、大分雄城台、大分鶴崎及び来学の日出総合、別府溝部学園、大分東明、佐伯豊南の計11校223名が受講しました。



河野先生は、地域通貨の意義と有用性について講義を展開されました。



貨幣の機能を 1. 価値の尺度 2. 価値を保存する 3. モノやサービスを交換するものであると定義し、社会生活に貨幣制度が密接にかかわっている理由を紐解いていきました。経済の基本に触れながら、高校生にわかりやすい説明をされていました。

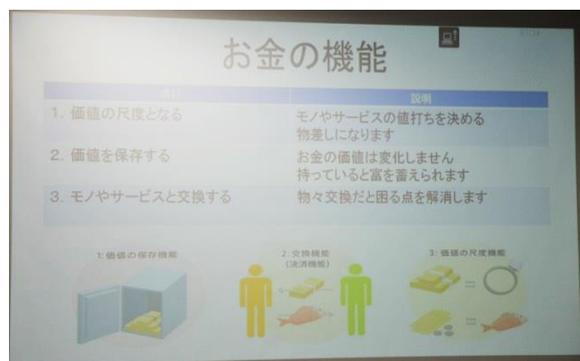
次に「地域通貨について知っているか」と問いました。何人かは「知っている」と答えたものの、多くの生徒には耳慣れないものであるようでした。それぞれの地域通貨の特徴などを詳しく説明されると、生徒からは「自分の地域にもあったらいい」という意見が多く出されました。

貨幣に比べて地域通貨は限定された地域でしか使えず、また、一定の期間でしか使えないものでありました。しかし、それは逆に「外に出ていかない通貨」であり、「放置されずに循環されやすい通貨」であるともいえます。また、条件がそろえば比較的自由に発行できるものであり、地域経済を発展させるカギになると述べられていました。



地域通貨を普及させるために「チェック・トランケーション」などの画期的な手段を挙げ、将来一緒に考えてくれる生徒が出てきてくれたら、と期待して

いらっしゃいました。



講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（100%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（99%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（98%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（99%）、「映像はよく見えた」（95%）という結果が出ました。

受講生の主な感想として、「今まで知らなかった地域通貨について興味が沸いた」「地域通貨はお金の地産地消と聞いて自分でも使ってみたくなった」といったものが寄せられました。